

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】令和 1 年 9 月 5 日 (2019.9.5)

【公表番号】特表 2018-528262 (P2018-528262A)

【公表日】平成 30 年 9 月 27 日 (2018.9.27)

【年通号数】公開・登録公報 2018-037

【出願番号】特願 2018-526282 (P2018-526282)

【国際特許分類】

A 6 1 K	8/92	(2006.01)
A 6 1 Q	19/00	(2006.01)
A 6 1 K	8/31	(2006.01)
A 6 1 K	8/36	(2006.01)
A 6 1 K	8/37	(2006.01)
A 6 1 K	8/26	(2006.01)
A 6 1 K	8/27	(2006.01)
A 6 1 K	8/19	(2006.01)
A 6 1 K	8/29	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
A 6 1 K	35/57	(2015.01)
A 6 1 K	36/185	(2006.01)
A 6 1 K	31/01	(2006.01)
A 6 1 K	31/19	(2006.01)
A 6 1 K	31/215	(2006.01)
A 6 1 K	36/47	(2006.01)
A 6 1 K	35/36	(2015.01)
A 6 1 K	35/644	(2015.01)
A 6 1 K	36/889	(2006.01)
A 6 1 K	36/73	(2006.01)
A 6 1 K	36/63	(2006.01)
A 6 1 K	33/30	(2006.01)
A 6 1 K	33/32	(2006.01)
A 6 1 K	33/06	(2006.01)
A 6 1 K	33/26	(2006.01)
A 6 1 K	33/00	(2006.01)
A 6 1 K	8/9789	(2017.01)
A 6 1 K	8/9794	(2017.01)
A 6 1 K	8/98	(2006.01)
A 6 1 K	8/25	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	8/92
A 6 1 Q	19/00
A 6 1 K	8/31
A 6 1 K	8/36
A 6 1 K	8/37
A 6 1 K	8/26
A 6 1 K	8/27
A 6 1 K	8/19
A 6 1 K	8/29
A 6 1 P	17/02

A 6 1 K 35/57
A 6 1 K 36/185
A 6 1 K 31/01
A 6 1 K 31/19
A 6 1 K 31/215
A 6 1 K 36/47
A 6 1 K 35/36
A 6 1 K 35/644
A 6 1 K 36/889
A 6 1 K 36/73
A 6 1 K 36/63
A 6 1 K 33/30
A 6 1 K 33/32
A 6 1 K 33/06
A 6 1 K 33/26
A 6 1 K 33/00
A 6 1 K 8/9789
A 6 1 K 8/9794
A 6 1 K 8/98
A 6 1 K 8/25

【手続補正書】

【提出日】令和1年7月23日(2019.7.23)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

組成物のうちの重量％量において：

(a) 約2.5％～約15％ エミューオイル；

(b) 約4％～約25％ ホホバ油；

(c) 約25％～約75％の皮膚科学基剤；および

(d) 約10％～約40％の金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩を含む皮膚軟化組成物であって、

前記皮膚科学基剤は少なくとも2種の皮膚軟化薬を含み、そのうちの1種は石油化学製皮膚軟化薬であり、他の1種は天然の皮膚軟化薬であり、前記石油化学製皮膚軟化薬は白色軟パラフィンであり、前記天然の皮膚軟化薬はシアバター、蜜蝋、ラノリンおよびラノリンベースの皮膚軟化薬から選択される、皮膚軟化組成物。

【請求項2】

前記皮膚科学基剤は、組成物のうちの重量％で、約20％～約30％の間の白色軟パラフィンおよび約20％～約30％の間の天然の皮膚軟化薬を含み、前記天然の皮膚軟化薬はシアバター、蜜蝋、ラノリンおよびラノリンベースの皮膚軟化薬から選択される、請求項1に記載の組成物。

【請求項3】

前記天然の皮膚軟化薬はラノリンである、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

前記金属もしくは半金属は、アルミニウム、亜鉛、鉛、鉄、バリウム、スズ、チタン、ケイ素、ベリリウム、マグネシウムおよびカルシウムからなる群より選択され得る、請求

項 1 ~ 3 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 5】

前記金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩は、酸化アルミニウム、酸化スズ、酸化亜鉛、酸化鉛、酸化ベリリウム、酸化鉄、酸化マグネシウム、酸化カルシウム、二酸化チタン、二酸化ケイ素、水酸化アルミニウム、水酸化亜鉛、炭酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸アルミニウム、炭酸亜鉛、炭酸鉄、および炭酸バリウムからなる群より選択され得、前記金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩は、酸化亜鉛、炭酸亜鉛、二酸化チタン、および酸化鉄（ I I I ）からなる群より任意選択される、請求項 1 ~ 4 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 6】

前記金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩は、少なくとも部分的に、カラミンとして前記組成物中に存在し、前記組成物は、金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩の重量 % 量を構成するカラミンの量および酸化亜鉛の量を任意で含む、請求項 1 ~ 5 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 7】

前記組成物中の金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩は、約 5 % ~ 約 20 % の間のカラミンおよび約 5 % ~ 約 20 % の間のさらなる金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩を含む、請求項 6 に記載の組成物。

【請求項 8】

前記カラミンは、酸化亜鉛および酸化鉄を含み、前記さらなる金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩は、酸化亜鉛を任意で含む、請求項 7 に記載の組成物。

【請求項 9】

少なくとも 1 種の保存剤をさらに含み、前記少なくとも 1 種の保存剤は、ユーカリ油およびピロクトン塩もしくは誘導体から任意選択される、請求項 1 ~ 8 のいずれか一項に記載の組成物。

【請求項 10】

前記組成物のうちの重量 % で、約 10 % ~ 約 15 % ホホバ油、約 5 % ~ 約 10 % エミューオイル、約 2 % ~ 約 5 % ユーカリ油、約 10 % ~ 約 15 % 酸化亜鉛、約 10 % ~ 約 15 % カラミン、約 15 % ~ 約 35 % の白色軟パラフィンおよび約 15 % ~ 約 35 % のラノリンを含む、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 11】

皮膚状態の処置および / または防止に使用するための皮膚軟化組成物であって、前記皮膚状態は、乾燥肌、おむつかぶれ、炎症、紅斑、乾癬性の発疹、褥瘡、アレルギー性の発疹、ざ瘡、酒さ性ざ瘡、軽度の皮膚感染症、および皮膚刺激による発疹からなる群より選択され、

前記皮膚軟化組成物のうちの重量 % 量において、以下：

(a) 約 2 . 5 % ~ 約 15 % エミューオイル；

(b) 約 4 % ~ 約 25 % ホホバ油；

(c) 約 25 % ~ 約 75 % の皮膚科学基剤；および

(d) 約 10 % ~ 約 40 % の金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩、を含み、

前記皮膚科学基剤は少なくとも 2 種の皮膚軟化薬を含み、そのうちの 1 種は石油化学製皮膚軟化薬であり、他の 1 種は天然の皮膚軟化薬であり、前記石油化学製皮膚軟化薬は白色軟パラフィンであり、前記天然の皮膚軟化薬はシアバター、蜜蝋、ラノリンおよびラノリンベースの皮膚軟化薬から選択される、皮膚軟化組成物。

【請求項 12】

前記皮膚軟化組成物のうちの重量 % で、約 10 % ~ 約 15 % ホホバ油、約 5 % ~ 約 10 % エミューオイル、約 2 % ~ 約 5 % ユーカリ油、約 10 % ~ 約 15 % 酸化亜鉛、約 10 % ~ 約 15 % カラミン、約 15 % ~ 約 35 % の白色軟パラフィンおよび約 15 % ~ 約 35 % のラノリンを含む、請求項 11 に記載の皮膚軟化組成物の使用。

【請求項 1 3】

皮膚軟化組成物を製剤化するための方法であって、前記方法は、エミューオイル、ホホバ油、皮膚科学基剤および金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩を合わせ、混合して、以下の組成物のうちの重量％量：

(a) 約 2 . 5 % ~ 約 1 5 % エミューオイル；

(b) 約 4 % ~ 約 2 5 % ホホバ油；

(c) 約 2 5 % ~ 約 7 5 % 皮膚科学基剤；および

(d) 約 1 0 % ~ 約 4 0 % 金属もしくは半金属の酸化物、水酸化物もしくは炭酸塩にある皮膚軟化組成物を形成する工程を包含し、

前記皮膚科学基剤は少なくとも 2 種の皮膚軟化薬を含み、そのうちの 1 種は石油化学製皮膚軟化薬であり、他の 1 種は天然の皮膚軟化薬であり、前記石油化学製皮膚軟化薬は白色軟パラフィンであり、前記天然の皮膚軟化薬はシアバター、蜜蝋、ラノリンおよびラノリンベースの皮膚軟化薬から選択される、方法。

【請求項 1 4】

前記合わせ、混合する工程は、4 0 未満で行われる、請求項 1 3に記載の方法。